

多摩市長 阿部 裕行 殿

自動販売機削減継続に関する要望書

1. 背景

2011年3月11日、東日本大震災ならびに福島第一原子力発電所事故の影響を受けて、私たち多摩市民はその生活を抜本的に見直さざるを得なくなりました。

特に私たちが馴染んできた便利な消費生活、その中でも、ボタンを押すだけで利便性が即座に入手できる自動販売機は象徴的なものです。特に飲料の自動販売機は台数が多いだけに、電力消費やCO2削減、容器包装削減、美観の観点からも、今後、減らしていくべきものと思います。

多摩市においては、7月11日より、公共施設の自動販売機の約半数が休止されました。私たちは、この迅速な対応を大変評価するものです。

しかしながら、節電を契機に始められた自販機休止措置は、9月末まで、と期限付きなっており、夏の電力事情だけの問題に特化するようでは、大変残念に思います。

自販機削減の真の目的は次ページ[参考資料](#)に示しているように、単なる電力問題ではなく、多摩市民の未来のライフスタイルを展望する意味において、大変重要なポイントだと思っています。

以上の背景の下に、以下の処置を要望するものです。

2. 要望

- 1) 2011年7月より実施された市役所並びに公共施設の自動販売機65台中32台の休止措置は、設置場所での重大な支障がない限り、これを継続する
- 2) さらに、来年度の契約においては、必要性の薄いものは撤去も含めて検討する
- 3) 公共施設の自動販売機の設置について、ガイドラインを早急に作成し、公開する

2011年9月1日

多摩市自販機プロジェクト

代表 山川 陽一

多摩市桜ヶ丘4-42-5

042-374-7165

参考資料

多摩市自販機プロジェクトのめざすもの

1. 3・11から学んだこと

私たちは持続可能な循環型社会を多摩市に実現したいとの思いから、ごみ減量や落ち葉利用を志向してきました。しかし、3月11日は私たちの生活を根底から見直すきっかけになりました。私たちが暗黙のうちに選択してきた現在の消費文明を総点検しなおさなければなりません。大量生産と大量消費と大量廃棄の生活、それを支えているシステム（社会構造）を一度疑ってみる時期に来ています。あの巨大地震は、溢れるものに囲まれて、便利で効率的な毎日の生活を疑ってかかれと言っているようでした。

- ・ エネルギーと物質の最上流を地下資源に依存している
- ・ 環境を不可逆的にただ同然で浪費し、お金に換えて貧富の差を作っている
- ・ 大型化、集中化、一体化をグローバリゼーションの名の下に地球規模で推進している

2. 私たちは舵を切る

私たちは毎日の生活の場で過去の習慣から抜け出して舵を切る必要があります。

- ・ 石油やウランのような地下資源だけではなく、特に地上資源（太陽光や植物の生産力）を活用しその比率を上げていく
- ・ 環境や資源は復元可能な範囲でのみ活用を図る
- ・ 小型化、分散化、多様化で地産地消を推進する

3. 私たちにできること（目標）

具体的に何ができるのでしょうか。でも全面展開すると集中しないしアブハチトラズになるので、「自販機の自粛」をテーマに取り上げました。飲料自動販売機は全国に265万台もあります。どこの国にいても街中にこんなに自販機が設置されている国はありません。なぜか、設置するだけで便利さが得られるからです。この利便性や安直さが、生活の中に浸透してしまいました。これからはトゲを抜くように、痛みも伴いますが減らしていきましょう。無論私たちの努力だけでなく、業者も説得しましょう。条例によって網もかけましょう。考えられるそして実行できることは皆やって自販機を減らそうとするのが「自販機プロジェクト」の目標です。

以上